

「正信偈」について（第二回）

正信偈の教え上 古田和弘、正信偈のこころ限りなきいのちの詩 戸次公正、等による
きみようむりようじゆによらい

帰命無量壽如来

讃 敬

なむふかしぎこう

南無不可思議光

総 帰

ほうぞうぼさいんにじ

法蔵菩薩因位時

ひつしめつどがんにようじゆ

弥 陀 章

必至滅度願成就

によらいしよいこうしゅつせ

如来所以興出世

釈 迦 章

依 經 段

是人名分陀利華

みだぶほんがねんぶ

弥陀仏本願念仏

誠

なんちゅうしなんむかし

結

難中之難無過斯

「正信偈」は、大きく三つの段落に分けられます。親鸞聖人御自身がこれらの段落をお決めになられたのではなく、「正信偈」の教えを学びやすくするために、のちの世に工夫されたものです。

第一の「総讃」は「帰敬」とも名づけられていますが、「正信偈」の冒頭の「帰命無量壽如来 南無不可思議光」という二行がその段落です。ここには、阿弥陀仏が願われていることをしっかりと受けとめられた親鸞聖人のお心が簡明に述べられています。二行とも同じ意味で、「心の底から阿弥陀仏を敬い、生きるための日々の依り処といたします」というお心が表明されているわけです。

第二の「依経段」は、『仏説無量寿経』に依って述べてある段落ですが、この「依経段」は、さらに三つの段落に分けられています。最初の「法蔵菩薩因位時」という句からはじまる部分が、阿弥陀仏の本願のことが述べられ、讃えられている「弥陀章」です。

次の「如来所以興出世」というくからが「釈迦章」です。ここには、『仏説無量寿経』というお経を説いて、阿弥陀の本願について教えてくださった釈尊のことが讃えてあるのです。

そしてその次の「弥陀仏本願念仏」という句からの四行が「結誠」といわれていますが、これはいわば、「依経段」の結びに当たる部分です。

第三の「依釈段」というのは、親鸞聖人が、念仏の教えを正しく伝えてくださった大先輩の七人の方々について讃えてある部分です。ここには、印度・中国・日本に出られた七高僧と、七高僧が教示してくださった本願念仏についての解釈の要点を掲げて、徳を讃嘆してあるので、親鸞聖人は、『仏説無量寿経』についてのご自分の見解を主張しようとされたのではなく、三国の七高僧のご教示を仰がれたのです。